

# 令和4年度 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 1

大仙市教育委員会

## 地域の防災の拠点として ～神岡地域学校協働活動の取組～

平和中学校では、地域の防災拠点として地域住民とともに「避難所開設訓練」を毎年実施しています。

平成29年の神岡地域での洪水の際は、実際に中学生が避難所開設の準備に携わり、水害被害にあった高齢者施設の方々や地域住民が避難されました。東日本大震災を契機に始まったこの取り組みは、生徒たちが入れ変わっても、受け継がれています。

この「避難所開設訓練」は、毎年継続することで生徒自身の防災意識を高めるだけでなく、地域住民の意識を高めることにも波及しています。それは、地域学校協働活動本部事務局の公民館からの参加呼びかけに多くの地域住民が応えて参加しているところからも伝わります。

毎年率先して参加している佐々木自治会連合会会長は、「生徒たちには、感謝とともに、安全安心の地域の担い手としての期待もしたい。」と感想を語っていました。

このような長年の活動に対し、平和中学校は今年度、内閣総理大臣安全教育功労者表彰を受賞しました。地域の安全安心に学校が大きく関わっています。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 2

## 地域で子どもを見守る ～西仙北地域学校協働活動の取組～

西仙北地域学校協働本部では、昨年度本部会議の際に通学時の子どもたちの安全面について話題となりました。学校周辺に熊の目撃情報が多くあることや、スクールバスでの通学で特に帰りの時刻のバス停留所から自宅までの道のりにおいて時間帯によって薄暗くなる等、不安の声があがりました。

そこで、本部事務局と学校で協議し、西仙北小学校の児童を地域で見守る「西仙北小学区子ども見守り隊」の結成を呼びかけることになりました。

その結果、学校、保護者、公民館等からの働きかけで、見守り隊の活動をスタートさせました。

7月には、西仙北小学校を会場に登録いただいた地域の方で「発足の会」を開催し、子どもたちとの顔合わせを行いました。今回登録された方々を中心にさらにこの活動を広げ、より多くの地域の方々に、「地域の子どもは地域で育む」ために、参加いただきたいと思います。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 3

## 地域の自然を守る

### ～中仙地域学校協働活動の取組～

中仙中学校では、総合的学習の時間で「秋桜プロジェクト」に取り組んでいます。その中でも「桜守活動」と「十六沢城址森林保全活動」は特に、力を入れて取り組んでいます。

「桜守活動」では、「八乙女山を守る会」の皆さんと一緒に桜並木の保全活動に取り組んでいます。齊内川土手の桜は、「道の駅なかせん」の対岸に位置し、国道や秋田新幹線のほか、校舎からもよく見えます。今年は、生徒会が自分たちでデザイン作成した缶バッジをドンパン祭りの際に販売し、その収益の50%を「八乙女山を守る会」に寄付し、保全活動の財源としてに利用していただきました。

また、「十六沢城址森林保全活動」は統合した豊成中学校が行っていた活動で、「十六沢城址緑地公園を守る会」の皆さんと間伐や枝落としの活動を行いました。この活動を通して、この緑地公園が、自分たちの住む地域に豊かな水をもたらしていることを学び、保全活動の意義を確認できました。

どちらの活動もすぐに結果に表れるものではありませんが、生徒たちはこれまで守ってきてくださった多くの方々の思いとともに地域の自然保護活動に寄与していきたいと意欲を示しています。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 4

## 学びを広げて

### ～協和地域学校協働活動の取組～

協和小学校では、1年生が大森山動物園でのフィールドワークを行いました。その教育活動に協和公民館仙人大学健康学部の方々が児童の各グループに入り、一緒になって活動しました。仙人大学健康学部の方々にとっては、児童と一緒に歩いて、健康づくりに楽しく取り組む機会となりました。学校にとっても、児童の安心安全のための見守りをしていただいたことで、引率した先生方も大助かりのウィンウィンの活動でした。協和小学校と仙人大学の協働活動は、これ以外にも仙人大学園芸学部とのさつまいも植えや収穫が企画されていましたが、コロナの影響で今年は中止となりました。このような協働活動は、高齢者の学びの場が子供たちのためにも貢献できる大切な機会となっており、今後広げてほしい活動です。

また、昨年度は協和中学校2年生が実施した地域のフィールドワークを参考に、協和公民館が親子で参加できる事業「ふるさと探訪楽園ツアー」を4回に分けて実施しました。事後アンケートでは小学生から、「地域のいろんなことを知れた。もっと地域について知りたい。」との感想が書かれており、地域へ関心が高まったことがわかりました。

地域の学びと学校の学びがコラボとして、新たな広がりを感じられた活動です。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 5

## 地域の農業特産品を育てる ～南外地域学校協働活動の取組～

南外地域では、地域学校協働本部事務局が地域住民や関係団体に呼びかけて、子どもたちが南外地域で生産されている農産物等について学ぶ「なんがいの味・食育体験交流事業」を実施しています。

南外小学校の5・6年生と南外中学校の1年生を対象として実施した「南外ソバを使用したソバ打ち体験会」では、特産化が進んでいる南外地域のソバ粉を使って、ソバ打ち体験を行っています。子どもたちは、地元の生産農家等から南外ソバの特色について説明を受けた後、ソバ打ちの手ほどきを受け自分達で調理し試食します。3年間続けて行い、中学生になるとほとんど手ほどきなしでソバを打つ子もいます。南外中学校では生産農家等から指導を受けながら自分たちで育てたソバでソバ打ち体験を行っています。感想をみると「地域の自然環境が、ソバ栽培に適していることが分かった。」

「地域農業に対する農家の皆さんの熱い気持ちが伝わった。」「自分も関わっていきたい」など意識の高まりもみられます。

これらの取組は、地域理解や地域への愛着形成を促進したいという学校側の願いと、基幹産業である農業の担い手育成に繋がりたいという地域側の願いをマッチさせた取組で、双方がウィンウィンの関係になることに大きく寄与しています。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 6

## 地域の史跡を体験を通して学ぶ ～仙北地域学校協働活動の取組～

高梨小学校・横堀小学校では、「史跡の里秋まつり～仙北公民館まつり」において、1年生から6年生が旧池田氏庭園やまち探検の様子など地域について学習した成果を展示しました。コロナの感染拡大を受ける中、地域の方が直接関わって学ぶ機会は少なくなりましたが、仙北地域を子どもの視点から紹介した展示は多くの参観者に感銘を与えていました。

また、「よみがえる平安の柵」の活動では、5・6年生が史跡の里づくり委員会の方々と一緒に、払田柵跡の周囲に旗を立て、当時の外柵を再現する活動を行いました。かつて、東北最大級の大きさを誇った払田柵ですが、現在は復元された一部分を見ることができるようになっており、その大きさを実感することは困難です。それが地元小学生の力で現代によみがえりました。時折降りしきる雨の中でしたが参加した子どもたちは、4年生から6年生が作成したオリジナルの旗を取り付ける作業を通して、その大きさを改めて実感しました。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 7

## 地域とのウィンウィンへの実践 ～太田地域学校協働活動の取組～

太田地域の小・中学校は令和4年度からコミュニティ・スクールとして地域の課題を学校経営方針に取り入れての取組を始めました。

その一つとして、太田の花いっぱい運動をさらに活性化する協働活動があります。太田地域では「花のまち太田」ということで、地域花壇に住民が植栽などを行っていますが、人口減少等の理由により花壇の管理が大変になってきた地域も出てきました。

そこで、今年度は太田中学校に地域花壇の代表の方から来ていただき、地域の花壇づくりの集会を開催し、中学生に地域花壇についての理解や作業日程等をお知らせする機会をもちました。中学校から各小学校へ情報が提供され各小学校では高学年に参加を呼びかけ、全ての花壇に太田地域の子どもたちが関わりました。

太田の伝統・自慢の「学校花壇」と「地域花壇」が両輪となり、地域への感謝・つながりを深める活動となりました。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 8

## 地域に学び、地域を創る ～大曲地域学校協働活動の取組～

四ツ屋小学校では、3年生から総合の学習「四ツ屋博士になるう」という活動を行っています。学年ごとに地域への学びを深める活動で、6年生は、四ツ屋地域にある職場の方々から協力を得て、「職場体験」を行っています。今年は、齋藤推進員のコーディネートにより7事業所で実施しました。受け入れた地域の事業所では、小学生の希望を確認しながらそれぞれ工夫してくれています。響屋大曲煙火店での花火師体験では、4年生で学習した「大曲の花火」の経験を生かして、花火が上がる様子を思い浮かべながら3号玉の花火を一生懸命作成しました。

また、東大曲小学校では、「古四王わくわく大作戦」として、地域での体験活動と学校での探究的学習をリンクさせ、計画的に実施しています。1年生から6年生まで富樫推進員がつないで古四王神社に関わる団体や地域住民等と関わりながら、探究学習を進め、その活動の成果として発表会をイオンモール大曲で発表会を行いました。子ども達は、一連の学習を進めながら、地域の方々のシンボルである国重要文化財「古四王神社」に対する思いや、これからの受け継ぐ地域住民の一員として再確認する機会となりました。

まさに、どちらの取組も、これからの地域を創る担い手を育むことに着実に繋がっていると感じています。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 9

## 子どもたちの学びを支える地域の思い ～大曲西地域学校協働活動の取組～

大曲西中学校では、山崎推進員が中学2年生の3日間の職場体験の活動において、できるだけ生徒の希望を実現させたいと職場体験を受け入れてくれる事業所の開拓を積極的に行いました。学校の活動計画をもとに、推進員自身が企業向けのパンフレット等を作成して事業所を訪問したり、生徒の希望により西中学校区だけでなく大曲地域にも範囲を広げたりしたことで、コロナ禍にもかかわらず職場体験の選択の幅が広がりました。各事業所もこの活動のねらいを理解してくれ、生徒達は体験を通して地域の方々の笑顔にすることで働くことの意義を理解したとの感想もみられました。

内小友小学校では、5年生が「SDG s 私たちの提案」をテーマに総合学習を進めました。グループに分かれて自分たちの提案内容にテーマを設定し発表しました。テーマごとにゲストティーチャーを選定し、メールやお手紙で質問のやりとりをしながら、提案をまとめ上げ発表しました。

西中や内小友小のこの学びは、子どもたちへの地域の方々の温かい思いで支えられた活動です。



## 地域から世界を学ぶ

### ～大曲南地域学校協働活動の取組～

大曲南中学校は、令和4年度、「環境美化教育最優秀賞文部科学大臣表彰」を受賞しました。この賞は、長年に渡って保護者や地域住民とともにやってきたアルミ缶・古紙回収や川港親水公園等でのクリーンアップ等の美化活動等をベースにESD（持続可能な開発のための教育）の視点での教育活動が評価されたものです。

今年度は環境問題について、世界を舞台に活躍する講師から講演をいただいております。キリバスの現状について現地の中学生とオンラインで交流を行い、身近な川を清掃することで海がきれいになり、世界の幸せにつながることを生徒達は強く感じたところです。また、自分たちの地域美化活動の意義を再確認し、地域への発信も重要と感じておりました。

角間川小学校では公民館と連携して、ラートの世界チャンピオンである高橋靖彦さんを招き、ラートの実演と体験を楽しみました。世界選手権では史上最多となる3度の個人総合優勝など20個のメダルを獲得するなど、世界で活躍する方の生の演技に驚くとともに、児童全員が高橋さんから手ほどきを受け、ラートを体験することができました。高橋さんは仙北市出身で、子ども達は世界で活躍する方が身近にいることを刺激を受けていました。

どちらの活動も、身近な地域（人）から世界を学び、これからを考える機会になった活動です。

